



## 地震・火災・津波...その時、どうする？

記録的な豪雨が、各地で土砂崩れや河川の氾濫等の甚大な被害をもたらし、未だその全容は分かっていません。被災された方々の一刻も早い救出と、生活の再建をお祈りいたします。

折しも本校では、7月2日に防災訓練を実施したばかりです。運動場への1次避難【右写真】の後、消化器やシューターの訓練、保育所との地震・津波合同避難訓練【下写真】を行いました。消防署の方からは、どの学年も真剣に取り組めていたと褒めていただきました。



南海トラフ地震をはじめ、災害はいつ起きるか分かりません。「その時、どう行動するか？」自分と周りの大切な命を守るために、普段から真剣に考え、備えをしておくことが、今こそ求められます。



下の文章は、東日本大震災で被災した中学3年生が書いたものです。「当たり前」に思える日常がいかに貴重なものか、改めて気づかされます。

### 【避難訓練後に書いた生徒の感想から】

- 初めての訓練でしたが、2・3年生をお手本にできたと思います。3年生は、保育所の子たちも助けていてすごいと思いました。(1年)
- 家族と避難場所を相談しておくことが大切と聞いたので、決めておこうと思いました。(1年)
- 去年より全校生が集まる時間が短くなっていたので、よかったですと思いました。本当に起きたときも素早く行動したいです。(2年)
- 最近各地で災害も多く、南海トラフ地震が起きる確率も上がったので、去年より緊張感をもって取り組むことができました。(2年)
- 自然災害を無くすことはできないけれど、防災により守れる命はたくさんあるので、中学生の力で人のためにできることをしたいと思いました。(3年)
- 一緒にいた幼児に「こわい？」と聞くと「こわい」と言っていました。小さい子は、一人で逃げるのは無理なので、自分達が助けてあげたいです。(3年)

3月12日。私たちは、希望に胸をふくらませ、通り慣れたこの学舎(まなびや)を、57名そろって巣立つはずでした。前日の11日、「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

自然の猛威(もうい)の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦(ようしゃ)なく奪っていきました。天が与えた試練(しれん)というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償(だいしょう)でした。

後輩の皆さん、中学校で過ごす「当たり前」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。  
(気仙沼市立階上中学校の卒業式における「卒業生答辞」より一部抜粋)

### 県教育委員会ホームページより

本校の合同避難訓練(昨年度)が、香川県教育委員会ホームページ(リーフレット「自己有用感を高める3つの視点」)に掲載されています。

「レスキュー隊」となって幼児の避難誘導を行う交流活動(他者から「頼られる」体験)が、自己有用感を高めることにつながっている、と紹介されています。

●香川県教育委員会HP

[http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimu/seitosidou/kokoro/h29/kokoronokoryu\\_A4\\_web.pdf](http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimu/seitosidou/kokoro/h29/kokoronokoryu_A4_web.pdf)

### 保育所との合同避難訓練



中学生が「レスキュー隊」となり、幼児の手を引いて安全に避難誘導を行い、頼られる体験をする。【三豊市立詫間中学校】